

評価報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

.理念に基づく運営	11
1.理念の共有	2
2.地域との支えあい	1
3.理念を実践するための制度の理解と活用	3
4.理念を実践するための体制	3
5.人材の育成と支援	2
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1.一人ひとりの把握	1
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3.多機能性を活かした柔軟な支援	1
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1.その人らしい暮らしの支援	9
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 平成 19 年 4 月 28 日
 調査実施の時間 開始 10時 00分 ~ 終了 15時 30分
 訪問先事業所名 グループホーム笑憩の里
 (都道府県) 鹿児島県
 評価調査員の氏名 氏名: 安徳ケイ子 氏名: 坂ノ上智子

事業所側対応者
 職名 管理者 計画作成担当者
 氏名 野元政子 日高順子
 ヒアリングを行った職員 (4)名

項目番号について

外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目につけます。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価報告概要表

作成日 平成 年 月 日

【評価実施概要】

事業所番号	4670103060
法人名	医療法人 仁愛会
事業所名	笑憩の里
所在地 (電話番号)	〒892-0871 鹿児島県鹿児島市吉野5221番地1 (電話)笑みの家:099-295-8650、憩いの家:099-295-8655
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	

【情報提供票より】(平成19年 3月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 1 月 27 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数(笑みの家)	9 人	常勤3人, 非常勤 6人, 常勤換算4.9 人	
職員数(憩いの家)	9 人	常勤5人, 非常勤 4人, 常勤換算4.8 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 2棟 階建ての 階 ~ 階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり	10000 円		

(4) 利用者の概要(3月 20日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79.3 歳	最低	62 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	花倉病院、つかさ歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

基本理念にそったケア実施に全職員が忠実に取り組んでいる。利用者の方が一日一日を生き生きと過ごしてもらえよう、身体機能の維持、精神面の安定を図るため外出(散歩・ドライブ・屋外レク等)を多くする心配りがなされている。ホームからは桜島が一望に眺められ、落ち着く気分ひたれる。又、居ながらにして、夏の花火大会も見ることができ、近くには吉野公園もあり楽しみごとを多く経験できる環境にある。ホームは中土間が中心にあり、室内が明るい。どの位置からも見渡せる、死角の少ない構造になっている。行き届いたケアの中で 入居者の表情も穏やかで楽しく時を過ごしている様子が伺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) お風呂場はアコーデオンカーテンで仕切られている。風呂場の標示が必要と、指導を受け、今回標示及び入浴中の札も掲げて改善されていた。脱衣場は洗濯場と共有のスペースのため、入居者がそれぞれの身体状況でも着替えができるような補助具の配置を望む指摘については洗濯場を別に設けることも考えられたが、職員や利用者の為にはホーム内にあった方が安全面や利便性に富むとの意見もあり、現在、検討中である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義や目的を全職員が理解して全員で今回も取り組む。評価することによってきづかされる事もあり、良い機会だと、前向きな姿勢で取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 初回はグループホームの現状を伝えるに過ぎなかったが、回を重ねていく毎に改善議題があげられ意見交換ができていく。施設内の設備及び日中の利用者への対応等の状況は、園全体で改善に向け頑張っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の意見、苦情はホームを育てる貴重なものと有難く伺い、相談・苦情対策マニュアル手順にそって対応策を検討し、記録に残し運営推進会議や家族に報告、今後のケアに生かしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散歩コースに民家や小・中学校があり、気軽に挨拶が出来る関係にある。地域の小・中学校からの福祉体験学習や新任研修を受け入れている。運営推進委員会も出来て地区の情報も得られ、連携はさらに深まりつつある。

評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員会議の中で施設長・管理者・スタッフ全員で地域密着型サービスについて学習し、地域の中で利用者が尊厳を保ち、その人らしい生活ができる理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に数ヶ所、理念を掲示し、意識して理念の実践に全職員が取り組んでいる。採用時は理念を共有、実現できるよう、説明している。ケアの場面でも気づいたら理念に基づいて注意を促している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入はしていないが、地域行事等、参加出来ている。オープン当初より地域の小・中学校福祉体験学習を受け入れていることもあり、交流が利用者の楽しみになっている。散歩中、地域の方々より花や野菜の差し入れをいただいたりして顔馴染みになっている。		夏祭りや敬老会などを通じて地域の方々に気軽にホームに来ていただくよう働きかける。又、日々の散歩や外出を通して、地域交流の更なる向上を期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を全職員が理解し、全員で自己評価に取り組んでいる。又、評価を受けることにより、気づかされることが多々あり、検討するいい機会になっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を奇数月の第3土曜日に設定し、開催されているが、行政からの出席がない。町内会長・利用者家族・民生委員の方々の出席により、校区の情報が入りやすくなって町内会の一員という親近感が持てつつある。		行政及び消防署・警察署も含めて発信し続け、協力もらえるよう努力されることに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の内容を報告している。市の介護相談員を受け入れ、運営や現場の実情の理解を得ている。グループホームの管理者研修、新任の先生方の研修の場に活用されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「笑憩便り」を送付し、生活の様子を届けている。年2回、出納帳のコピーと領収書を送り残高確認してもらい確認書を受け取っている。面会の際も状況報告並びに確認もらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が家族会も定期的開催し、機能させることも重要である。年6回の行事活動への参加の折、意見感想を聞いている。家族の意見や苦情はホームを育てる貴重なものと捉え、職員会議などで報告している。		運営推進会議以外でも純粋に家族の意見が述べられる家族の活動を期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	勤務交代は運営者の都合での異動はない。働く人の立場から、非常勤から常勤への異動ぐらいである。職員の離職、新規採用の時期は利用者へ紹介して不安への配慮や早く馴染めるよう、職員間でもお互いに協力体制を作っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	パートも含め、全スタッフで推進している。働きながらレベルアップのための資格取得に向けて勉強する機会を応援している。内部研修の年間計画表もあって、休みの調整をしながら全員で取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会にスタッフの希望者は参加している。散歩コースに他のグループホームが数ヶ所あり、声をかけたり、来てもらったりの交流はできているが、職員間同志の勉強会は実施されていない。		吉野地区グループホームの職員間の交流が出来るよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の家庭訪問は出来ていないが、本人を始め家族や関係者のホーム内見学をしてから本人の了解のもとに入居してもらう。本人の不安を解消する為会話を多く取るよう心掛けている。特に入居後3ヶ月間は環境になじめるよう対処している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	園芸や料理など入居者に相談したりしている。利用者の喜怒哀楽に関心を寄せながら一緒に過ごす姿勢が見える。日常生活を安全で楽しいものにしようと云う気持ちで接しているのが伺える。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月末に翌月の個人目標について一人一人の思い(ほとんどが元気でいたい。)を伺い、希望や意向の把握ができています。本人の言葉も聞き逃すことのないように配慮されている。		
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケースカンファレンスの年間計画を立て実行している。利用者の参加を基本とし、家族来訪時に状態を説明し、意向を聞き反映させている。職員は利用者の視点に立って気づき等を出し合った結果を記録に残し計画作成・ケアに活かしている。業務日誌・個人記録の内容が分りやすく記載されて、介護計画に活かされている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者は毎月スタッフと一緒に具体的な課題・目標を考え、独自のカレンダーに記入し、居室に掲げてある。職員はその目標に沿った支援を心がけている。日常、スタッフ間で本人の変化に応じたケアの見直しや新たなケアについての話し合い・引継ぎができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に代わる受診同行や外出支援をおこなっている。利用者の入院や退居に対しては生活の継続性の視点から本人の意向を聞き医師・家族・職員が話し合い、利用者本意の対応がなされている。重度化や終末期に対しては受入れ体制が必要になってくるが、柔軟な対応を考えていく方針である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時や必要時、家族の希望を聞き、医療機関を決めている。基本的には受診や通院は家族により、支援いただく(緊急時や不可能な場合は職員が同行している。)事を利用契約時に説明し、同意を得ている。かかりつけ医の適切な受診ができています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居して将来的に基準(口腔摂取ができない、座位保持が出来ない。頻繁な医療行為が必要等)の症状が見られるようになった場合は、家族と相談し、本人にとって必要かつ最良と思える対応を臨機応変に実施している。終末期マニュアルも出来ていて対応方針を確認し合い、職員・利用者も安心してきる介護体制が出来ている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入社時に人権・プライバシー確保は、全職員の同意を得ている。又、退職時にも個人情報の同意を得ている。具体的には居室の出入りトイレは声かけやノックをし、誘導の際はさりげなく、プライドを傷つけない態度や言葉掛けができています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで過ごせるよう、希望・意向を聞いて、できるだけ個別性に心がけている。職員は生活支援が職員の都合でなされていないか、振り返りながら、介護している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に楽しく食事している。(急がせることなく、個々のペースで)行事や花見の時も職員手づくりの利用者に適したものを作っている。利用者の能力に合わせ、職員と調理準備、配・下膳、食器洗いの協働ができている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個人の希望に沿った時間帯の入浴がなされている。安全面を配慮し、1対1での対応でコミュニケーションを取りながらのゆっくり入浴している。身体介護の必要な方はスタッフ間の協力で安全に支援できている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お墓参りや将棋をしたり、計算学習など、個人の希望に沿った楽しみを支援できている。ボランティアの協力を貰ったり、サービスのイベントに参加したり、ユニット間の合同レクも楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	園外や園庭の散歩が利用者の日課になっている。利用者に合わせ週1回はドライブにでかけている。桜の花見、コスモス見学などの行事を家族に連絡し一緒に出掛ける機会をつくっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は朝、9時に開錠、夕方6時に施錠している。センサーで出入りの早めの対応ができている。一人ひとりに起こり得るリスクの一覧表を作って個別の対応に注意をはらっている。業務日誌に衣類チェックがや、顔写真があり、万一時に早めの発見につながる対策もしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力をもらって、避難訓練をしている。運営推進会議で地域の方々の意見を聞き、協力体制づくりを進めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嚥下や咀嚼の状態に合わせて、軟らかく煮たり刻んだりしている。(個人記録に食べたり、飲んだりした量を記載)10時・15時はお茶の時間、入浴後の水分補給等、注意している。協力機関の栄養士に献立の栄養バランスについて指導をもらっている。定期的な体重測定が健康維持の目安になっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは中土間を中心に食堂・和室・居室が配置され、適度な光と風が入り居心地がよい。ホーム内は一般家庭用品が使用され、違和感なく温かみのあるくつろげる空間となっている。玄関や共用スペースには季節感のある花を飾ってある。トイレは利用者・職員共有である。清潔に気持ちよく使えるよう配慮されている。毎年、季節行事にあわせて、雛飾り、七夕飾り等を設置している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、馴染みのある家具や家族の写真を置いたりして本人が居心地よく過ごせる環境づくりができていいる。畳敷きベットで日中、布団をたたんで置くようにしたり、居室にごみが放置されないよう配慮されている。居室の分らない方には、飾りや張り紙など目印がある。		